

2012.4月号

平成24年4月20日発

発行元 NPO法人陽だまり  
発行元住所 〒739-0043  
東広島市西条西本町27-37 高貴ビル201  
電話 082-422-4115  
<http://www.npo-hidamari.or.jp>

主な記事

「協働パワーアップセミナー」報告  
交通課題への取り組み/子育て支援  
代表「絆について思うこと」  
事務局日より

平成23年12月17日(土)、ついに念願の「協働カパワーアップセミナー」を開催しました。年末にも関わらず38名もの方が参加してくださり、その中には多くの市職員さんや市議会議員さんの姿もありました。以下、川北講師による講義内容の概要を紹介します。



## 協働と自治の違い

東広島市では、「市民協働のまちづくり指針」にあるとおり、「協働」ではなく「市民協働」という言葉を使っている。内容を見ると主に自治を意味する領域で使われており、本来の「協働」とは異なる。かなり独特な方向で進められていると感じる。

## 協働の事例



愛媛の団体「ア：ネットワーク」は、映画好きが高じて撮影の誘致・支援を始めた。場所を使用するための「許可」は県が、エキストラ募集や弁当調達などの現場支援は同会が行うなど、行政と民間がそれぞれの得意を生かしている。その結果、撮影希望が続出した。このように、異なる主体が相乗効果を生むことが、「協働」である。

## 協働はプロセス

長崎市長は管理職研修で、①協働は発想から、②一人芝居からプロデューサーに、③市民とコミュニケーションする力、の3点を挙げている。市民はよりよい地域づくりのパートナーであり、行政が仕様を決めた後に業務と責任を市民に渡すのではな

く、ニーズ調査・仕様設計から実施・成果までのプロセスを市民と一緒に行うのが協働だ。

## 2020年の日本

日本のGDPは10年後には中国の1/2になる。世界経済における存在は小さくなり、国債の残高、社会保障費は膨らむ。橋、上下水道、ダム、道路などのインフラも高齢化が進んでいる。これらの補修コストがどのくらいになるのか。計画があるのは全国でも習志野市と藤沢市の2市しかない。

## 20年後の東広島市

2030年には今より子どもが3割減り、生産人口2.4人で一人の高齢者を支えることになる。2020年には、65歳以上の高齢世帯率は17.6%、75歳以上の単身世帯は18.9%になり、孤独死のリスクが一層高まる。地域の安全安心をどう築くかが課題となる。



## まちづくりは誰のため

子どもを産まない理由は、①経済的不安、②親の介護が不安、③地域の子育て活動が見えない、となっている。子どもたちの世代が誇りを持つ

て暮らし、働けるまちにしていくなことが大切だ。自治会・町内会活動も、これまでの行事中心から、安全安心の確保と経済的競争力の維持・向上に向けて、舵を切っていくべきだ。

今後は、行政・市民・学校・専門家・事業者・NPOなどが互いに力を出し合って、まちの課題を解決して行く「総働」の時代へと入って行く。そのためにも、行政は協働を生み、育てることが大切である。



講義の後は、「こんな協働が始められそう」「協働を始める・進める上での課題」というテーマで個人でメモをし、それを1グループ4人で共有しました。立場の違う人の意見を聞くことは大変参考になりました。

講師：川北秀人氏 (IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者)  
1964年大阪生まれ。87年に(株)リクルートに入社し、広報や国際採用などを担当して91年退社。国際青年交流NGOの日本代表や国会議員の政策担当秘書などを務め、94年にIIHOE設立。NPO・市民団体のマネジメントや、企業の社会責任(CSR)への取り組みを支援するとともに、NPO・市民団体と行政との協働の基盤づくりを進めている。

## 交通課題への取り組み

### 1. 「第3回中国地区移動支援ネットワーク交流会」 in 米子へ参加

平成23年11月27日(日)、塩谷副代表、市川、石井の3名で参加しました(参加:22団体38名)。まず、「東日本大震災の被災地での移動支援ボランティアの現状」の報告があり、その後、各県からの活動状況と課題報告に基づいて、意見交換を行いました。平成24年度は広島県での開催が決まり、陽だまりが事務局を担当することになりました。



### 2. 「広島県移動サービスネットワーク」の立ち上げ

NPO法人結いの会(呉市音戸町)と陽だまりが発起人となり、平成23年12月8日(木)、広島県で初めて移動サービス団体の交流会を開催しました。当日は県内5団体と移動ネットワークの岡山の横山氏の参加があり、広島県でもネットワークをつくることで合意しました。会長には塩谷副代表が就任し、事務局は陽だまりが担当します。当面は、福祉有償運送に係る事務のスリム化と、次回交流会に運輸支局担当官を招くことを目標に活動することになりました。

### 3. 広島運輸支局訪問

平成23年12月26日(月)、交流会で出された意見を集約し、塩谷、市川、石井が広島運輸支局を訪問、ローカル

ルールや運営協議会のあり方について担当官と意見交換を行いました。内容は後日、県内の各団体へ報告しました。

### 4. 安全運転講習会

平成24年3月4日(日)、下見福祉会館に運転会員18人が集まり、安全運転講習会を開催しました。事務局から安全運転に係る注意事項を説明した後、いざ外へ!運転手役と利用者役に分かれ、実車研修を行いました。参加者のリアルな演技のおかげで、現実的で充実した内容となりました。

## 子育て支援

### 1. 「ヒロコク☆ス」戦!!

平成23年10月22日(土)、広島国際大学との共同企画で、学園祭の名物企画「40mのロング太巻きずしづくり」に小学生20人と初参加しました。最初に40mの海苔が巻き簾の上に敷かれ、具材をのせた後、太鼓の合図に合わせて巻き進めました。開始から約1時間で長い長い口



おいしくできたよ

ング巻きずしの完成!目の前で20cmにカットしてもらい、出来たてを頂きました。食後はお兄さんお姉さんに手を繋いでもらって学内を散策し、模擬店で買い物をしたりステージ

を見るなどして帰りました。広島国際大学関係者の皆さん、大変お世話になりました、ありがとうございました。



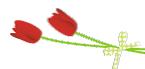
夏休みに続き、秋休みの2日間と春休みの5日間も子どもの居場所づくり事業を行いました。今回特筆すべきは、広島国際大学の学生さんが全面的に春休みの企画をしてくれたことです!!内容は、「フラダンス」「うどん作り」「いちご大福作り」「カップケーキ作り」そして「一緒に遊ぼう」。地元の黒瀬高校や広



3月27日 フラダンス♥

島大学の学生さんも、ボランティアとしてたくさん参加してくれました。毎回10人以上のお兄さんお姉さんに囲まれ、子どもたちは大喜び!勉強を見てもらったり、一緒に遊んだりと存分に交流を楽しみました。取材も相次ぎ、NHKのニュースで紹介されたり、ラジオ番組「RCCラジオカー」に生出演したりしました。

秋春合わせ、延べ198人の小学生が参加し、保護者からは、「東広島にしかないサービスでいつも楽しみにしている。」と嬉しい声が寄せられました。



# 「絆」について思うこと

代表 廣瀬 長子

東日本大震災から1年が過ぎました。原発事故が重なり復旧、復興が進んでいません。被災地の人たちの過酷な生活を思う時、ご心労、ご苦勞はいかばかりか察するには余りあります。テレビや新聞で災害の凄さを知るにつけ、改めて今私たちに何ができるか、そして何をしなければならないか、冷静に考えてみる必要があると思います。

この一年間、「絆」という言葉を私たちは何度口にしたのでしょうか。では「絆」とは一体何でしょう。辞書には「人と人の断つことのできない結びつき」と載っています。家族の絆、地域の絆、社会の絆。人と人が生活している所には必ず生まれてくるものであり、昔から大切にされてきました。平常に生活している時には余り意識しません。しかし災害時や地域などで助け合いが必要になった時、「絆」の大切さが見直され、それをより一層強いものにしていかなければと思います。何より平素から人とのつながりを作っていく努力が大切ではないかと思っています。

「絆」の大切さを再認識した今、被災地の膨大な量のがれきの処理に目を向けるべきではないかと思います。このがれきの処理が進まなければ復興が進まないと言われていています。これまで全国から多くの人たちの支援や善意に感動し敬服してきました。しかし、このがれきの山の処理は、多くの人たちの支援や善意だけではどうにもならないことも分かりました。

嬉しいことに、やっとながれき処理に全国の自治体の協力の動きが広がりつつあることが報道されています。受け入れに当たっては、いろいろな問題があると思いますが、被災地の人たちの痛みをお互いに分かち合うために協力できることは協力していきたいと思っています。

被災地の人たちは先の見えない不安の中で日々生活の再建のために頑張っておられます。できることから少しずつお手伝いさせてもらい、一日も早く被災地の人たちの笑顔が戻る日を願っています。

## 新ヘルパー紹介

児玉宏美

こんにちは。児玉宏美と申します。ヘルパーの仕事始めて一ヶ月余り。まだまだ緊張の毎日ですが、パワフルなスタッフのみなさんに元気を、そして利用者さんの笑顔に力をもらっています。これからも、利用者さんの笑顔にたくさん出会えるようがんばりますので、皆様ご指導よろしくお願ひします。

高濱純子

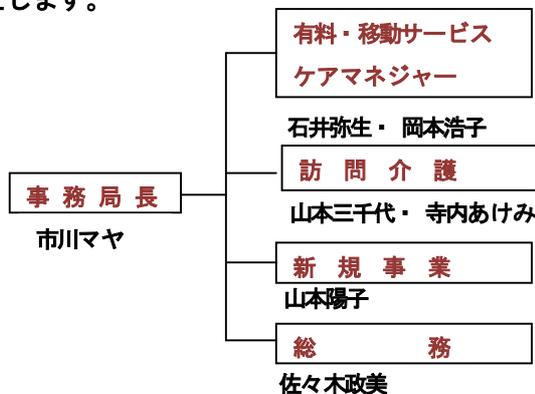
昨年からは有料サービスで、このたびヘルパーでお世話になることになりました。認知症の勉強と人生経験の長さで利用者の方と話が共有でき、お役に立てたらいいな一と思っています。

「自分が嫌いなことは人にしない」私の人生訓です。聞き上手なヘルパーでいたいと思います。よろしくお願ひいたします。

# 事務局だよ

## 事務局体制

新規事業に向けて、事務局スタッフの担当が変わりました。新しい担当は以下のとおりです。よろしくお願いいたします。



## ケアマネジャー

このたび、よりよいサービスを目指して利用者アンケート調査を実施し、15人の方から回答を頂きました（回収率62.5%）。若干の「その他」「不明」の回答を除くと、すべての項目で高い評価をいただきました。また、自由記載欄には、「大変親切で、意見・要望など自由に話ができて、いい人たちに会えたことを嬉しく思っています」「今の対応で十分です。今の気持ちを保持してください」「デイサービスの苦情など、すぐに対応されて大変嬉しかったです」などのご意見が寄せられました。私たちが常日頃心がけている「誠実・迅速」が皆さまに伝わっていることの嬉しさを感じるとともに、これに甘んじることなく更なるスキルアップを目指していきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。

### 【質問項目】

- ①言葉づかい・態度
- ②利用者や家族の要望、心身の状態についての理解
- ③プライバシー保護への配慮
- ④ケアプラン（介護計画）についての説明
- ⑤介護サービス事業所の紹介
- ⑥介護サービスの利用方法や内容、費用、キャンセルについての説明
- ⑦介護保険制度以外のサービスについての説明
- ⑧事務所の対応
- ⑨介護サービス提供状況などの確認
- ⑩困った時の相談
- ⑪苦情等の対応
- ⑫ケアマネジャーへの不審や疑問の有無

## NPO活動全国大会

平成23年11月24日（木）・25日（金）、「NPO活動推進自治体フォーラム全国大会」が奈良市で開催され、佐々木、山本（陽）、岡本が参加しました。3人はそれぞれ「地域社会を良くする新しいビジネスの発展に向けて～行政・中間支援組織の協働によるSB・CB支援のあり方～」「NPOと地域との連携について～ひと・もの・まちづくり 地域力の向上に向けての提案～」「多様な主体の持続的な連携・協働に向けて～地域づくり・課題解決をめざす新しい公共の実践～」をテーマにした分科会に出席し、情報収集を行いました。中でも、寄附をする側も受ける側もメリットのある「認定NPO法人」の制度改革改正については参加者の関心が高く、さっそく陽だまりでも取得に向けて検討することになりました。

活動資金の確保については、ともすれば助成金・補助金・委託金に頼りがちですが、例えば企業や自治会との連携から寄附を受ける、市民にも寄附文化を根付かせる、などの工夫がNPO側にも必要です。今回の法改正を上手に活かし、私たちの活動が地域の支援を受け、そして持続できる確かなものに育てていきたいと思っております。



遷都くんと

## 助成金・補助金

引き続き、（財）ひろしま子ども夢財団から助成金をいただきました。今年の春休み、夏休み、秋休みの子どもの居場所づくり事業に使わせていただきます。ありがとうございました。

**編集後記** いつも笑い声の絶えない事務所ですが、さすがの私たちも担当が代わったこの数カ月も多少大人しく過ごしました。そんな私たちに、お菓子の差し入れをしてくれる活動者のみなさん、ありがとう～！みなさんの愛情を受けて、これからも順調に成長（体重？）していきます♡